

平成最後の輝かしい新年を、ご家族お揃いでお迎えの事と、心よりお慶び申し上げます。
旧年中は宮崎支部会員の皆様には、当支部運営に際し物心両面のお力添えを賜り、深甚なる敬意と感謝を申し上げる次第です。

今年も年初より統一地方選やお御代替わり、そして参院選を見据えた憲法改正等主要な行事が目白押しですから、皆様には倍旧のご協力をお願いすることになろうかと存じます。

特に憲法改正は①自衛隊明記、②緊急事態条項、③参議院の合区解消、④教育改革等の4項目が自民党案として提示される予定であり、我々防衛協会青年部会の最大の関心事は何と言っても①自衛隊明記と②緊急事態条項の加憲です。

自衛隊に関する不毛な憲法論議は、現憲法に「自衛隊明記」をすれば終止符が打たれ、国土防衛の崇高な任務に邁進する自衛官のモチベーションは高揚すると信じますし、先月も申し上げましたが、当初PCでは漢字変換不能の「専守防衛」なる怪しげな4文字造語に縛られることも無く、必要な装備を必要な場所や部署に配備できるものと考えます。

いま話題に上っているヘリ空母「いずも」や「かが」の甲板を換装して、米軍海兵隊と共通仕様の「F35-B」を40機調達し、各々20機を搭載する計画等を非武装中立論者に聞かせたら、口から泡を吹いて卒倒するかも知れませんが、中国海軍の増強ぶりを考慮すればこの防衛大綱は至極順当であり、海上防衛の大任を担う専門家なら当然の帰結と考えます。

しかし一隻2000億円近い「多用途運用護衛艦？」なども上記の理由で当然必要ですが、自衛官にはもっと切実な問題がありまして、何と自衛隊にトイレットペーパーが不足し、個人が自腹で購入していると言うニュースが流れましたので以下に転載致します。

自衛隊の“トイレットペーパー自腹問題”が、感動の結末を迎える

日刊 SPA ! 2018/12/15 08:53 「自衛隊ができない50のこと 45」

◆「トイレットペーパーを自費購入させているのか？」と国会で質問された！

そろそろ年の瀬となってまいりました。日刊 SPA ! のこの連載でも何度もレポートしてきました「トイレットペーパー自腹問題」が、やっと解決しそうな局面を迎えております。昨年から与党自民党議員の中にも自衛隊のトイレットペーパーが自腹という現実を知る議員が増え、調査があったり党内の議論になっていると聞いていました。そして、さる11月1日、自衛隊記念日の衆議院予算委員会において、立憲民主党の本多平直議員が「すごくミクロで大変申しわけないんですが、逆に、自衛官の誇り誇りと言っている総理にこれはぜひ聞いていただきたいんですけども、トイレットペーパーの、何か人数当たりの何センチとかという基準を決めていて、それが大抵足りなくなって、自衛官の方は自費でトイレットペーパーを買っていると。どこの役所で今どきそんなことがあるんですか。これ

は真っ先に解消していただきたいと思うんですけれども、いかがですか」と質問しました。

これに対して、岩屋防衛大臣が「そのような話は、実は私も防衛大臣に就任する前に、地元の自衛隊家族会の皆さんから聞かされたことがございました。お尋ねのトイレットペーパーについては、隊員が自費購入していた場合もあると承知をしております。しかし、現在では、消耗品の中でも特に優先度の高いものとして、各駐屯地、予算を執行していると思いますが、さらに、これについてもきちっと行きわたるように、隊員の負担ということにならないように、しっかり指示を出したいと思います」と答えています。

◆防衛大臣と安倍総理が、対応すると明言した

岩屋防衛大臣がトイレットペーパー自費購入の事実を認め、予算執行の優先順位を上げてトイレットペーパーを買うことを徹底すると国会で言ったわけです。

安倍総理も「このミクロの問題については直ちに対応していきたい」と述べました。防衛大臣も総理大臣も認め対応すると明言しました。

やっと、やっと、自衛隊の全ての駐屯地、基地、施設で、トイレに普通にトイレットペーパーがあるように改善される日が来るのです。

すでに防衛省では日用品を隊員が自費購入していないかを調べるアンケートが回っていると聞いています。隊員の皆さんはせっきくの機会ですから、ほかにも自費購入しているものがあれば問題点を忌憚なくしっかりと申し出てほしいと思います。今が改善のチャンスなのです。やっと自衛隊のトイレにトイレットペーパーが常備される日がきたとお祝いしたい気分です。自衛隊記念日の国会の質問で些細なことですが、毎日の問題の一つが解決されてよかったと思います。

◆自衛隊のトイレは和式、基本的にはウォシュレットはない

自衛隊の予算については、自衛隊ならではの「理不尽に耐え、搾取されても政治に文句を言わない」という組織ゆえに、ありえない予算不足と自腹構造がずっと続いてしまったわけです。理不尽な仕打ちに耐え、隊員1人1人が我慢し文句を言わずにいたのをよいことに、政治や社会がその現場自衛官達の美質に甘えてきてしまった、そのことが残念でなりません。政治に意見を言えない彼らの職場環境は、国会で話題に上ることがなかったのです。

その象徴が、トイレットペーパーですら予算不足で買えず、隊員が自腹で購入しているというあきれた状態でした。

トイレットペーパーが無いためにトイレを封鎖したり、自費購入が常態化しているために売店でペーパーが1ロール単位で販売されているのもよく見る光景でした。トイレの掲示板に「ペーパーは私物だから使うな」と掲示される珍現象もあちこちで目撃されました。

自衛隊——防衛省は国の機関です。だから「国の施設でまさかそんなビンボー事案が起

こるわけがないだろう」とみんなそう思っていました。この自衛隊ならではの不思議な光景を知った奥様方が「いくらウォシュレットがあるからって、トイレトペーパーがないと困りますわね」と言ったという話がネットの噂として伝わってきたことがあります。「国のような組織なのだからトイレトペーパーがなくてもウォシュレットはあるだろう」と思った人がいたのかもしれませんが。ネットの噂ですから、誰かが面白おかしく作った話かもしれませんが、マリー・アントワネットの逸話として語り継がれた「パンがなければお菓子を食べればいいのに」に似ていますね。

商用施設のトイレには自動蓋開け機能や使用音を聞こえなくする水音発生機能、温かい便座機能がついている高機能ウォシュレットが整備されていたりします。我が国の技術力や衛生管理のすばらしさに外国人が驚愕するようです。しかし、我が国が誇る自衛隊にはそんな文明の機器を導入するような予算はありません。お客様をお迎えすることが多い特別なセクションでなければウォシュレットなどありません。トイレトペーパーすら買えない自衛隊に高額なウォシュレット配備など夢また夢です。しかも、自衛隊のトイレは今も多くが和式です。施設自体、果たして耐震構造になっているのか不安になるような古い建物が多いのです。それもまた、ツライのです。

◆現場の隊員は爪に火をともしような生活

防衛省や自衛隊に限らず、私たち庶民は国の機関は経費が自由に使えるリッチな存在なのだろうという想像をしているようです。バブル時代までは霞が関官僚は夜な夜なタクシーチケットを使って飲み歩けたのかもしれませんが、それは大昔のこと。今はどこもかしこも予算を絞られ厳しいようです。自衛隊でも一部の高官様はともかく、現場の災害派遣で汗を流し、人を救い国を守ってくれる隊員さんたちは本当に爪に火をともしような生活をしています。その一端がこの件でわかっていただけたかと思います。

さすがに自衛隊にウォシュレットがつけられることは無いだろうと思いますが、ペーパーがあるという「人として最低限の安堵感」は絶対に必要ですよ。誇り高い隊員さんたちが給料日前のキツイ時期に「厚生費・衛生費」名目でトイレトペーパー等様々な日用品を買うための集金をされないようになればいいですね。自分の給料を経費に充てることなく全額自分で使えるようになればと切に思います。一般の職場では当たり前のことですが、クリスマス前の小さな幸せになればいいなと思います。＜文／小笠原理恵＞ 以上

【小笠原理恵】 国防ジャーナリスト。「自衛官守る会」顧問。関西外語大学卒業後、報道機関などでライターとして活動。キラキラ星のブログ（【月夜のぴよこ】）を主宰

実は私も現役当時の昭和48年、東京市ヶ谷の32連隊勤務時にオイルショックを経験しており、民間ではトイレトペーパーや洗剤等を買い溜めして大騒動になった社会現象がありましたが、その影響か？部隊でもトイレトペーパーの配給が不足したらしく補給陸曹から一回の使用は1m以内にするように等の指導がありました。（笑）

隊内PXの在庫が払底しても営内自衛官は外出もままならず、ましてや誇り高き我々防人がスーパー等で主婦に混じってトイレットペーパーや洗剤の争奪戦をするなど考えも及ばず、思いあぐねて郷里の母に洗剤等を郵便小包で送って貰ったことを思い出した次第です。

後日牛込郵便局から小包を受領に来てほしいとの連絡が入り、なんで駐屯地内まで届けないのか不審に思いながら出向いたところ、その小包の中には洗剤の外に何とサントリーロイヤルのウイスキー瓶が入っており、それが粉々に砕けて外皮はもとより中身までもウイスキーに浸り、郵便局内にはロイヤルの芳醇な香りが漂っていたような気がします。

郵便局員から「小包にこんな物入れて貰っては困る」ときついお叱りを受け、ウイスキーまみれの小包を営内班に持ち帰り恐る恐る梱包を解いたところ、洗剤は全く問題ありませんでしたが、同封の手紙はぐしょぐしょに濡れており破らぬように開封しました。

45年も昔のことで手紙の中身までは覚えておらず、多分母は当時19歳の酒好きの倅の為に高級ウイスキーを買い求め、「営内班の皆様と呑んで下さい」とでも書いてあったような記憶がありますが、残念乍ら母の我が子を慈しむその思いは届かず、しかし再度封筒をよく覗いて見ると何とロイヤルに浸った一万円札が同封してあり、同夜は隊内クラブにて営内班の仲間達と母に感謝しつつ安酒をあおったことは云うまでもありません。(笑)

今となれば古き良き思いでの一つとなりましたが、そもそもこのトイレットペーパー騒動は第4次中東戦争を嚆矢として、原産各国が石油価格を70%引き上げた事で慌てた当時の中曽根通産相が「紙節約」を国民に呼びかけたのが原因とも云われています。

国土を海で囲まれた日本は物資搬送手段の99.7%(重量ベース)を海上輸送に頼っており、前述の「多用途運用護衛艦」等に活躍して貰わねばシーレーンは守れず、中国海軍が日本海や太平洋で跳梁跋扈し始めると、また「紙不足」などの悪夢の再来になりかねません。

そうならぬ為にも自衛隊を憲法に明記してあらゆる緊急事態に備えることが、今の我々に出来る一番効果的な社会貢献だと考えますので、支部会員の皆様には今年も変わらず日本及び日本を守る自衛隊の為に お力添えを賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

来る2月8日金曜18時より昨年同様スカイタワーホテルにて支部総会を開催しますので、諸事万端お繰り合わせの上、皆様のご来駕を鶴首してお待ち申し上げます次第です。

結びにお御代替わりの本年が、日本及び皇室、そして支部会員皆様にとりまして平安な一年であることを衷心より祈念申し上げます。

平成31年1月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦